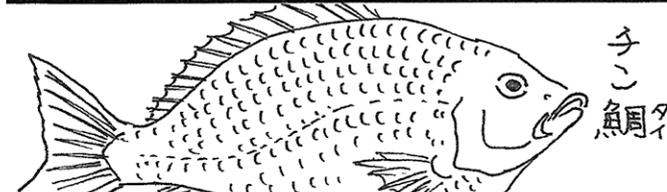
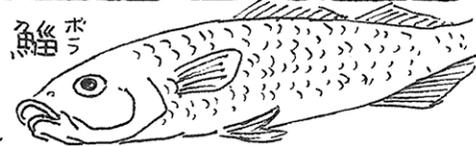


がたがた通信

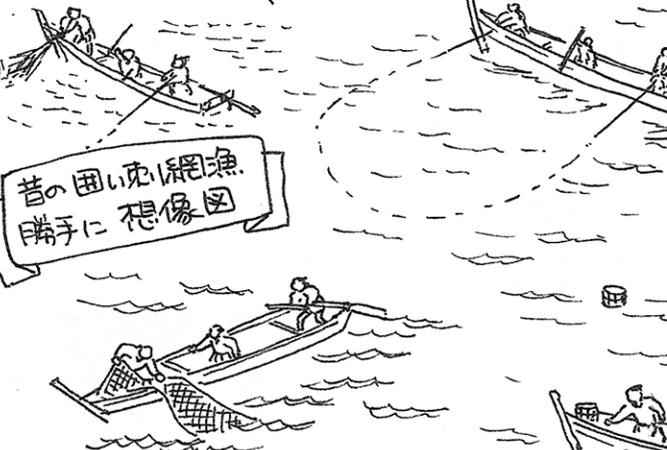
No. 42
2010・初夏の号
発行
NPO法人
水辺に遊ぶ会
大分県中津市中央町2-8-35
TEL&FAX. 0979-23-5320



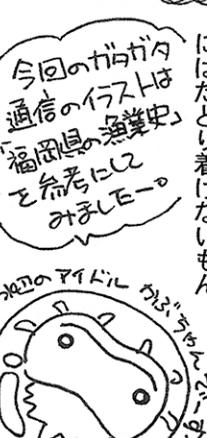
▼困り刺し網漁なる漁法があるそう
な。船の上から魚影を追い、魚群を
網で囲い込み、船縁や水面を叩いて
魚を網に追い込んでつかまえる。見
たことはないけど、きつと経験が物
を言う漁法なのだろう。
▼5月4日、今年も快晴のたこつぼ
漁体験。子どもたちが喜ぶならと、
いつも楽しい体験のために力をか
してくる我が漁師軍団から、「来
年は困り刺し網漁体験しよう」な
ーんて言葉が飛び出した。その足で
早速、海で予行演習。成果はでーっ
かいチヌやらボラやらセイゴやら、
そして嬉しそうみなみの顔。(船
が動かなくなると助けを待ってたっ
てのはナインヨ)さーてさて、ここ
でしゃべっちゃった以上はやらにゃ
ならん。じーんじーん、さーん。



▼水辺に遊ぶ会ができて、もうすぐ
12年。当時はタコの煮方も、カニの
食べ方も、魚のさばき方も知らな
かった私。漁師の奥様に仕込んで
もらったおかげで、今じゃでーっかい
チヌが突然やってきたってお刺身に
さちやうもんね(時間はかかるのよ)
それにしても、困り刺し網漁とやら
で捕れた魚の大きいこと。潮が引い
た干潟で出会う魚くんたちは、ちっ
さいもの俱樂部の方たちばかり。こ
んなに大きな魚が干潟の上を悠々と
泳いでいるなんて、中津干潟の新し
い顔に出会ったようで新鮮だ。



▼あ、モチロン、私たち水辺に遊ぶ
会を支えてくださる皆さんも、一緒
に歩いてください。じゃないと夢
にはたどり着けないもん。
▼10周年を迎えるにあたり「生きも
の元氣、子どもも元氣、漁師さん元
氣な中津干潟」宣言をしちゃってま
した。そう、つまり、中津干潟と中
津の海を中心としたジソクカノウな
社会を目指していきたいな、など
と、夢をちよっと大きく広げてみて
もよさそうダ！豊かな海の自然に
感謝しながら、その恵みを分けても
らうことで、みんなが幸せになれる
ような、誰かが海と向き合っ
て、しんどい思いをしているなら、ともに
支え合いながら歩いていけるような
そんなくらしができるかと思う。
そして、貝が湧き、魚が踊る、ひと
昔前の中津の海を、みんなの力を合
わせて取り戻したいなと思うのであ
る。



伝言板

6月はイベントたくさんです。同送のチラシを見てね。

今年9月は三百間で海岸清掃します!!
日時:9月19日(日) 9:00~11:00

皆さまのご協力のおかげで、大新田海岸の漂着ごみは年々減少傾向にありますが、同じく私たちが生物観察のフィールドとしている三百間海岸(新瀬川左岸)では、ごみの搬出の問題や近寄りづらさ等により、手つかずの状態となっており、大変心を痛めてきましたが、9月の清掃をこちらの海岸で行うことといたしました。砂浜が広く、ごみも多いため、ご苦労をおかけするかと思いますが、是非ともご協力いただけますと幸いです。詳細は、次号の通信でお知らせいたします。

★大新田海岸清掃は以下の日程になります★
6月13日・12月5日・3月13日 11:00~12:00
※6月は田植え時期のため、車でご参加の皆さまにはナフコ大新田店様の駐車場をご利用下さいませようお願いいたします。

★海岸清掃時のごみの回収に利用する軽トラックを貸して下さる方や企業様を探しています。お心当たりがございましたら事務局までご一報下さいませ。

会費のご納入をよろしくお願いいたします。

水辺に遊ぶ会は、皆さまの会費によって活動しています。中津干潟保全のため、会の趣旨をご理解いただき、会費を納入いただけますと幸いです。年会費1000円 郵便振替 01760-0-134110 NPO法人水辺に遊ぶ会

昔の海の写真募集中

ササヒビ・浜遠足・貝掘りなど
昔の海の写真を探しています

★海苔漉き体験は「J青少年育成に関するNPO助成事業」を受けて実施しました。ありがとうございました。
★アサヒビール「うまい!を明日へ!」キャンペーン様より、本年度の環境活動へご寄付いただけることになりました。ありがとうございます。

★毎月11日はジャスコで買い物★イオン三光SCイエローレシートキャンペーン★
毎月11日にお買い物をした黄色いレシートを食品レジ前の「水辺に遊ぶ会」BOXに入れていただくと、金額の合計の1%が水辺に遊ぶ会の活動資金として寄付されます。
平成21年度の活動資金をイオン三光様より贈呈いただきました。ご支援下さったみなさま、イオン三光様、ありがとうございました。

ホームページ営業中! 遊びに来てね!!
<http://www.max.hi-ho.ne.jp/y-ashikaga/>
水辺に遊ぶ会 MUSEUM
水辺に遊ぶ会ミュージアムは「建物のない博物館です」
<http://www.geocities.jp/kabunykun/index.html>
メールはこちらへ→mizube1999@yahoo.co.jp

- 活動報告(2010.1.1~2010.4.30)
- 1.10 三百間測量調査
 - 1.15 大分県地方港湾審議会出席
 - 1.18 中津干潟保全の会役員会出席
 - 1.20 ふるさと学講師(県社会教育センター) 中津南地域学習ゲストティーチャー ~21 近江八幡生態系保全事業取材
 - 1.23 三百間・大新田調査
 - 1.25 生態系保全事業事例発表会(審査員)
 - 1.31 舞手川測量調査
 - 2. 8 三百間・大新田現地調査
 - 2. 9 生態系保全事業事例発表会(発表)
 - 2.10 EMECS国際フォーラム発表
 - 2.14 ズグロカモメと冬鳥観察会実施
 - 2.16 大分県男女共同参画推進会議出席
 - 2.17 大分県環境審議会出席
 - 2.19 南部小学校5年生環境学習講師
 - 2.20 豊前市自然と文化財を守る会講演
 - 2.22 アサヒビール「うまい!を明日へ!」プロジェクト記者会見
 - 2.28 海苔漉き体験実施
 - 3. 1 中津干潟保全の会干潟調査参加
 - 3. 7 生態系保全事業事例報告会(中央)
 - 3.10 沖代小学校4年生干潟学習講師
 - 3.11 三百間・大新田現地調査
 - 3.12 日田市NPO意見交換会事例報告
 - 3.14 4th大新田ビーチクリーン・漂着物調査 ササヒビ補修用竹切り
 - 3.15 人と海の共生事業検討委員会出席
 - 3.23 中津中央ロータリークラブ講話
 - 3.24 中津市環境審議会出席
 - 3.26 大新田地区環境整備協議会 会長へ結果報告
 - 3.27 ササヒビ補修のための竹切り
 - 3.28 小型サンショウウオ調査参加
 - 4. 4 たこつぼ体験 つぼ作り
 - 4.10 NPO法人H21年度会計監査
 - 4.11 イオン黄色いレシートキャンペーン贈呈式
 - 4.13 県立工科短大新入生環境学習講師・大新田海岸清掃
 - 4.18 たこつぼ野焼き準備
 - 4.22 ごみゼロおおい県民会議出席
 - 4.23 森林づくり委員会出席
 - 4.24・25 たこつぼ体験たこつぼ野焼き

■新春号から、すっかり間が開いてしまっ
たこと、お詫び申し上げます。皆さまの
支援のおかげで、年中暇なし?の水辺事務
局です。中津干潟もすっかりメジャーにな
り、干潟の活動も定着してきたこの頃。こ
れからは助成金にがっかり頼らずに、自
分の足で立っていきけるNPO目指して頑
張ろう、と思っております。今年度もよろし
くおつきあいくださいませ。
(う)

2009年度 大新田海岸ビーチクリーン&漂着物調査結果

たくさんの方々にご参加いただき、心より御礼申し上げます。ありがとうございました。海ごみ問題は、市や県、国を超えて、たくさんの方々と共に取り組まないと解決できない問題です。これからも、ご理解とご協力をお願いいたします。

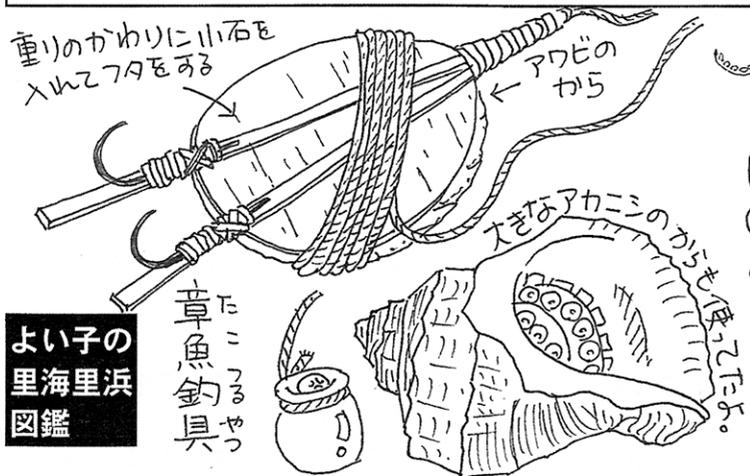
参加者 約550名

ごみ種別
ワースト5

回収した
ゴミの量

可燃：560kg
不燃・粗大：720kg

- 1位：プラスチックシート破片
- 2位：ガラス・陶器破片
- 3位：硬質プラスチック破片
- 4位：タバコのフィルター
- 5位：食品の包装・容器



よい子の
里海浜
図鑑

章魚釣具



イ、章魚

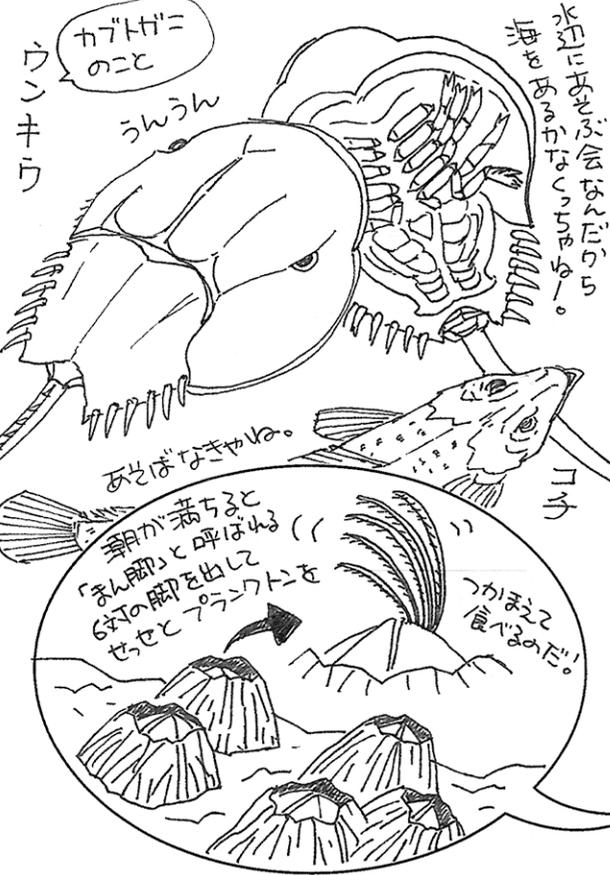
そうだ、海に行かなくちゃ。浜を、潟を、歩かないかん。自分の目で、耳で、肌で、中津干潟の声を聞かなくちゃ。



▼『沈黙の春』。環境に興味のある人ならば、知ってる人は多いだろう。アメリカの作家であり海洋生物学者であったレイチェル・カーソンが、化学物質による環境汚染に警鐘を鳴らした作品である。彼女は人間が化学物質を無秩序に使い続ければ、生態系が破壊され、やがて、鳥の声もしない虫の羽音も聞こえない「沈黙の春」が訪れるだろうと、50年近く前にこの著書の中で訴えた。当時は経済成長のまっただ中。賛否両論で騒然となったそうだが、人間が豊かさを享受することばかりに邁進すると、その豊かさを与えてくれる根本にある環境が破壊と荒廃へと向かっていくという彼女の訴えは、今も説得力がある。

▼久しぶりに何も無い日曜日。日々の忙しさをなかなか海歩きができないアヤシイ干潟調査隊は、本来の活動をすべく大新田に集合した。生命を求めて、夕飯のおかずを求めて、干潟を歩く。いやいや、あくまで調査だ。アサリとかハマグリとか採集しようとは思ってないぞ。「アサリはいないかなあ」ザクザク掘るが出てこない。いきなり出たのはオキシジミ、次にシオフキ。でも、シオフキ、なんか少ないねえ。あーハマグリ発見！ベストお吸い物サイズだ。もちろんキャッチアンドリリースだよ、調査、調査。それにしても生きものが、なーんとなく少ないぞ。オサガニ見たっけ？いや、ウミナナの仲間はいっぱいいたな。カブトガニも場所が悪いのか、活動していないのか、見あたらない。どうしちまったんだよ、中津干潟。夏はもうすくなのに・・・ここ数日寒いせいかなあ？

▼初夏、干潟は生命に満ちあふれる季節。のはずなんだけど、なんだかちよっと今日の干潟寂しかった。風だけが自分の両側をすり抜けていく。思わず「ナウシカ」のユバ様になつたような気分である。「また一つムラが消えた！」ってここは干潟だよ。ジョーダン、ジョーダン。でも、中津干潟のこと、もうちよっとしっかり見つめないといけないかな、と思つた日曜日だった。杞憂に終わればいいんだけどね。



そして、タコツボを

探求する我々の旅は

まだまだ続くのデアル。

▼4月某日某所にて、今年のためこつぼ体験漁事前打ち合わせが行われた。話し合いも終盤にさしかかった頃、「アカガイノタコツボラサガスベシ」の指令がもたらされた。それって、どこにあるんだよー???

▼アカガイのたこつぼは、かつて中津でも使われていたが、現役は存在しない伝説のたこつぼなのである。ということ、取材班は少ない情報網を駆使して幻のたこつぼあれ？なにかちがう？を探したのである。

情報その1「長崎県の島原の方が、貝を利用したイイダコ漁があると話してくれました。アカガイの殻を真っ白になるまで日干しにして、それをロープに結び漁をするそうです。タコが入ると、タコ自身が蓋を閉じるそうです。未だに、貝を日干して利用しているのところです」(Yさん)

情報その2「大きなアカガイやサルボウが近年全然とれないみたいで、現場でも非常に貴重なものになっていくらしく、やめる漁師さんがいても、その仕掛けは他の漁師さんが手ぐすね引いてまっている状況らしく



とても手に入らないそうです。すぐ入りが良いみたいです。」(Nさん)

情報その3「中津干潟でサルボウの殻を拾ったら、中に小さなタコが入っていた経験があります。両方の殻を上手に合せて中に入ってしまったよ」(Aさん)

▼どうやら有明海方面では現役で使われているらしいことが判明。でもここで時間切れ。タコちゃん貝殻の中に入ってるのを想像すると、なんともほほえましくてあきらめきれません。えーい、ないならば作ればいじゃん。大きなアカガイは、2年前某市場で売ってるの見たもんね。てなことで、引き続き「幻のアカガイたこつぼ」捜索中！あ、とりあえず現物見たい方は、中津市歴史民俗資料館へどうぞ。

ホンの紹介

フジツボ 魅惑の足まねき

倉谷うらら著
岩波科学ライブラリー159
生きもの



フジツボを調べたいわけではなかったけど、表紙が楽しかったのでつい借りてきました。要するに「フジツボは貝類ではなく甲殻類」で、かのダーウィンもこの奥が深い生きものにはまったくらい愛しいのよ、という内容。本論からは大幅に離れますけど、著者はなんとフジツボのイヤリングをしているとか、フジツボの日本限定都市伝説（海の岩場でケガした人のひざのお皿の裏側に増殖したフジツボがビッシリ・・・）だとか、イギリスビクトリア朝時代の潮干狩りのイラストだとか、フジツボに関心がなくても、楽しめる甲殻類フジツボの情報があふれています。この著者の近影もついてれば、フジツボのペーパークラフトまでの大盤振る舞い。これぞフジツボの入門書だったわけ。はめられた・・・。